

読む医療 専門医が語る現代病気事情

部位別の罹患傾向

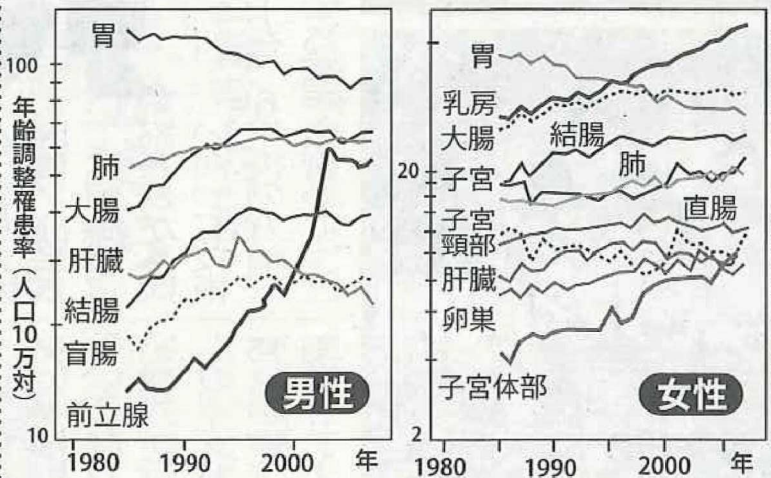
がんは、私たちの生活から切り離せない病気になりました。1981年以來、がんは日本人の死因第1位であり、実に3人に1人の方が、がんで亡くなっています。そこで、ご家族やご自身のために知っておきたいがんに関する様々なことを説明したいと思います。

現在、わが国のがん患者さんは、推定150万人以上にのぼります。その中大腸がん患者数が23万人でもっとも多く、胃がん、前立腺がん、乳がん、肺がん、肝臓がん、子宮がんが続きます。さて、それでは毎年何人の方が新たにがんと診断されているのでしょうか？それを表す指標に罹患率というものがあり、人口10万人中、何人が新たにが

◆執筆者紹介 Ⅱ宮下正夫／日本医科大学消化器外科教授／日本医科大学千葉北総病院外科部長 医学博士／日本消化器外科学会指導医／日本消化器病学会指導医／日本がん治療認定医機構認定医／消化器がんの早期発見と治療に広く活躍中。

知っておきたい”がん”の知識 ①

部位別がん年齢調整罹患率の推移 (宮城・山形・福井・長崎の4県)



んと診断されたかという数値で表します。わが国では、平成18年の時点で男性のがん罹患率は642、女性は448で、男性の方が女性に比べて1年間で1.4倍多くがんが診断されています。それでは、どの部位のがんの罹患率が近年増えているのでしょうか？かつて、日本人の代表的ながんは胃がんであったのですが、近年この胃がんの罹患率は大きく減少しました。一方で、前立腺がん、大腸がん、肺がんが大きく増加しています。女性では、胃がんの減少とともに、乳がん、大腸がん、

男性は前立腺がん等、女性は乳がん等が増加

肺がんの割合が増加しています。特にこの20年で、乳がんの罹患率が第1位になりました(上図参照)。食生活の欧米化などがこれらの現象に影響していると考えられます。時代とともに増加する傾向のがんに着目していくことが重要です。

また、これらのがんが治療でどれだけ治せるかということを表す指標として、生存率というものがあります。同じがんといっても、悪性度の度合いは異なります。その原因の一つは、がんが進行するスピードの違いです。例えば膀胱がん、肺がん、食道がんといったがんは、進行するスピードが速いのがん代表格です。このようながんでは、発見されたときには、すでに手術が難しいほど大きくなっていることや、他の臓器に転移していることもあり、治療が難しく生存率も下がってしまいます。ただしこの生存率は、がん全体を統計的にみる指標ですので、個々のケースにおいてはがんの進行度以外にも、年齢、合併症の有無等の様々な要因によって変わってくることを留意しなければなりません。次回は、がんの原因、予防、早期診断などについてふれたいと思います。

国立がん研究センターがん対策情報センター資料より作図